

「平等な命」

小田原市立泉中学校

三年 今野 綾香

「ペットショップ」という言葉をきいてどのようなイメージを持つでしょうか。

私は休みの日によく家の近くのペットショップに行きます。犬を見て「かわいいな。」と思う反面、他の犬よりも大きい犬や毛並みが整っていない犬を見ると「売れ残ってしまっただ犬はようになってしまふのだろう。」と悲しい気持ちにもなります。

先日、私はお出かけの途中でいつもはあまり行かないペットショップへ行きました。しかし、まずお店に入ってからとても息が詰まるような感じがし、そのペットショップにいた犬たちはほとんど身動きがとれないのではないかと思う程、小さなケージの中に入れられているのを見ました。さらにそういう犬

が何十匹もいたのです。私はその場を目撃してとても心が痛みました。どうして人間はこんなにも身勝手なのだろうと。犬も尊い命を持った一つの生命だというのに。

そこで私は、ペットショップの現状について調べました。年間で売れ残ってしまう犬の数は、約二万八千匹です。売れ残ってしまった犬たちはどうなってしまおうのでしょうか。

ほとんどの犬がブリーダーのもとへ返還されます。そして、その犬たちは再び繁殖犬として生きなければなりません。それ以外の犬は、最悪の場合、保健所に持ち込まれ、殺処分の対象となってしまう可能性もあります。

二〇一三年の動物愛護法改正により、保健所は売れ残りのペットの引き取りを拒否できるようになったので、現在犬の殺処分の数は減少傾向にあります。それは良いことだと思われるかもしれませんが、ブリーダーのもとへ返された犬の中には、悪質な業者に引き取られる犬も多く、引き取った犬を販売や繁殖な

ど用途によって仕分け、どちらにも該当しない犬に対しては、飼育放棄をして、衰弱や死に至らせるという事も問題視されています。

これに関して、私は六月に、ブリーダーをしていた男が動物愛護法違反で逮捕されたというニュースを見ました。その内容は、繁殖能力がなくなった犬を密封した袋に入れて窒息死させたということです。そのニュースを見て、気づけば涙が流れていました。

ブリーダーという仕事に責任を持ってもらうために、ブリーダーを国家資格にするべきだと思います。そして、数年ごとに更新をして施設の実態調査をした方が良いと思います。そうすることで、ペット業界での事件やトラブルを少しでも減らすことができるのではないかなと思うのです。

動物への虐待は、ブリーダーだけでの話ではありません。二〇二三年度の国内の犬の飼育頭数は約七百万匹で、国民の約三割の人が犬を飼っています。しかし、その中でも犬に

対する虐待は起きてしまっているのです。警察庁の調べによると、犬や猫などの動物を虐待したとして、全国の警察が摘発した事件の数が去年一年間で百八十一件にも上り、過去最多となったのです。しかし、それでも警察が調べていないところで虐待が起きてしまっている可能性は十分あるので、実際はもっと多いのではないかなと思います。

また、二〇二三年度の捨て犬の数は約二万匹で、そのうち約二千匹以上が殺処分されてしまいました。これは、一日当たり十五匹の犬が人間の手によって殺処分されているということです。

このような悲しい現実が今、日本でそして私たちの身の回りで起こっていることなのです。今すぐにこの現状を変えろということとは難しいと思いますが、私たちができることは色々あります。まず、愛犬を飼っている人は、責任を持って愛情いっぱい、最後まで飼うことです。私も犬を飼っているので、これか

らも大切に一緒に過ごしていきたいと思います。また、避妊、去勢手術を受けさせてあげることも、殺処分を減らすことにつながるのです。

最近では、迷子になってしまった犬をすぐに飼い主のところへ返してあげられるように、マイクロチップを装着させるという取り組みも行われています。ちなみに、海外での例を挙げると、オーストラリアでは、ペットシヨップでの犬や猫の販売を禁止されるだけでなく、動物を殺処分する施設も一つもありません。海外では、このような取り組みが行われる程、動物の命は大切に、飼うことにはとても責任を持たないといけないのです。

ペットは人間の所有物ではありません。この地球にいる全ての動物に人と同じ平等な命があるのです。このような現状を知り、一つ一つのことを心掛けて取り組むこと、そして動物を大切に思う優しい気持ちで、犬や猫などの動物の殺処分や虐待の削減につながり、

社会の明るい未来へつながっていくのだと思います。